



不安と恐怖への適切な対応で 未来を拓こう

日時

2012年
12月20日(木)
13:00~19:00

会場

小野記念講堂

(早稲田キャンパス27号館地下2階)

古来、自然災害はそれが起こる度に人々に教訓を与えてきた。近代に入ってから科学・技術はそれに応えようとしてきた。しかし、科学者・専門技術者のそれに向けた努力が進歩に合わせて効果的に進んできたかと問われれば、必ずしもそうとは言えない。専門領域の細分化、価値多元化、通信情報化、長寿化、グローバル化がもたらす科学的・社会的な不確実性の増大によって、その努力は逆に市民の不安感、恐怖感を増強させ、科学・技術への信頼感を失わせているように思えることもしばしばである。私たち大学人には、東日本複合大震災の現状を今一度被災者の立場に立って見つめることで、今できることには直ちに対応すると同時に、複雑で流動的な社会にあって時間的空間的な広い意味での大局観をもって有限な空間における事象の関連性を科学することによって新しい未来を拓いていく責務がある。

総合司会 朝日 透 (理工学術院教授)

13:00	開会の辞	浅野 茂隆 (先端環境医工科学研究所所長、理工学術院教授)
13:05	重点領域研究機構長挨拶	深澤 良彰 (重点領域研究機構長、理工学術院教授)
13:15	来賓のご挨拶	林 芳正 (参議院議員)
第一部 先端環境医工科学研究所の実績報告		
13:25	講演1 「災害時の適正なリスクコミュニケーション確立に向けて」	田中 幹人 (大学院政治学研究科准教授)
13:40	講演2 「人間の安全保障と先端科学技術融合に必要な国際医療貢献船団」	浅野 茂隆 (先端環境医工科学研究所所長、理工学術院教授)
13:55	講演3 「災害時に有用なデバイス機器開発」	秀島 翔 (理工総研次席研究員)、中西 卓也 (研究院准教授)、 逢坂 哲彌 (理工学術院教授)
14:10	講演4 「環境汚染物質拡散に関するリスクアセスメント」	中尾 洋一 (理工学術院教授)
14:25	講評1	横倉 義武 (日本医師会会長)
14:30	講評2	近藤 達也 (独立行政法人 医薬品医療機器総合機構理事長)
14:35~14:50 休憩		
第二部 パネルディスカッション ー被災者のための科学研究活動のあり方を問うー		
14:50 ~16:10	パネリスト	溝口 勝 (東京大学農学部教授) 齋藤 康則 (東北学院大学経済学部准教授) 寺島 英弥 (河北新報編集委員) 鰐部 行崇・村上 智美 (日本リザルツ) パネルモデレーター 難波 美帆 (大学院政治学研究科准教授)
16:10	閉会挨拶	笠貫 宏 (理工学術院教授)
16:30	懇親会 「レストラン西北の風」	(早稲田キャンパス26号館大隈記念タワー15階)

<共催団体> 早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構、(社)サイエンス・メディア・センター、早稲田大学欧州バイオメディカルグリーンサイエンス研究所、(財)パブリックヘルスリサーチセンター、(社)日本医療学会、(NPO)日本リザルツ、(任)海国立志会、早稲田大学博士キャリアセンター、早稲田大学ナノテクノロジーフォーラム

◆参加申込み: 12月18日までに <https://ssl.waseda-pracdoc.jp/h-ship/> よりお申込み下さい。◆問い合わせ: h-ship@waseda-pracdoc.jp

参加費無料